

丹波市まなびの里づくり協議会小委員会(第4回) 内容まとめ

日 時:令和6年1月23日(火)10:00～

場 所:氷上住民センター 第1小会議室

参加者:荒木委員、松本委員、薦木委員、小畠課長、足立恵一係長、山内課長、前田係長、
足立大希主査

欠 席:山内副委員長、見田係長

協議内容:「生涯学習(まなび)を実践に生かす地域づくりの推進」に向けた取組
について(提言)

【主な提言内容(案)】

地域のまなびを広げていくために必要なこと

①社会教育人材の育成

- ▶社会教育人材の養成
- ▶社会教育士(主事)の養成に関するサポート

②人づくり・つながりづくり・地域づくりに携わるコーディネーターの存在

- ▶「楽しい」を中心に置いたまなびの場づくりをする人
- ▶自治協議会や学校、NPOなどの多様な主体との連携・協働を促す人
- ▶各自治会の自治公民館活動の取りまとめ及び伴走支援を行う人
- ▶大人も子どももともにまなび、育つことができる地域を共に創る人

③社会教育人材のネットワーク構築

- ▶地域学校協働活動推進員、地域コミュニティ活動推進員などの多様な主体との協働
- ▶多様なコーディネーター同士が互いの現場や、課題点などを共有できる場

④地域学校協働活動を通じた学校・家庭・地域の連携

- ▶地域学校協働活動とコミュニティスクールの一体的推進
- ▶「学校教育・社会教育・家庭教育」の垣根を超えた「地域教育」の推進

⑤行政の横断連携による教育支援体制の構築

- ▶教育委員会と首長部局との連携・協働による教育事業の推進



委員・参加者の意見

○提言書内容について

- ・【委員】現在、市の中で総合計画や教育振興基本計画なども審議されている。
特に総合計画では「まなび」が市の将来像のキーワードになっている。
提言書の中にも現在総合計画で「まなび」が議論されていることも明記する。
- ・【委員】まとめの部分の整理が必要。総合計画とつなげることも必要。
- ・【委員】学校教育・社会教育・家庭教育が個々に動いては課題が解決されないことも明記する方がいいのではないか。
- ・【委員】丹波市の生涯学習を語るうえでは、自治基本条例や参画と協働の指針などの内容を経過で書く必要があるのではないか。
- ・【事務局】丹波市は公民館制度を廃止したが、自治協議会内でコーディネーターがいて地域のまなびを展開していくことが望ましいのではないか。これを地域だけでなく学校と一緒にやっていくことが重要。地域学校協働活動も含め、具体的な展開を提言に書くのはどうか。
- ・【委員】提言の内容であるならばまなびの里づくり協議会で議論したかどうかは重要。
まだ、そこまで議論できていないのではないか。
- ・【委員】しかし、公民館がなくなった経緯などは事実として時系列でまとめるのはどうか。
- ・【事務局】地域づくりにつながる提言になるようにまとめるのが重要。
- ・【委員】地域学校協働活動についても周りの理解がないのに提言に入れるのは違和感。
- ・【委員】確かにあくまで地域づくりを目的とした提言書になるので、生涯学習と地域学校協働活動、そしてそこが地域づくりにつながることを書く必要がある。
地域学校協働活動はあくまで手段。地域自治につながる仕組みとして明記。
- ・【委員】総合教育会議の中でも自治協議会の課題が提起されている。
地域コミュニティ活動推進員が地域づくりのキーマンであることも触れる必要がある。
- ・【委員】自治協議会や公民館はあくまで機能で、そこにいるキーマンとなる人の人づくりが重要。
さらに深い議論は第二期計画の審議の中で議論が必要になってくるのでは。
- ・【委員】自治協議会が地域づくりのキーであることは踏まえて議論をした方がいい。
- ・【委員】生涯学習基本計画では「目指す市民像」「目指すまちの姿」が設定してある。
この市民像やまちの姿を目指すための人や場として自治協が重要である。
- ・【委員】学校教育、社会教育、家庭教育の垣根を超えた「地域教育」の推進の項目は重要。
- ・【委員】「地域教育」という言葉は今の丹波市ではなじみはないが、学校、家庭、地域が共にまなび合っていくことは重要。これから広めていくために残すのは大切。